

霧ヶ峰シャトルバスの運行状況と課題

1 運行状況

年度	運行期間	路線	延利用者数	延運行台数	1台当たり利用者数(人)	備考
14	7月20、21日 (2日間)	和田峠～八島湿原 強清水～八島湿原	5,808	219	26.5	
15	7月12～21日 (10日間)	和田峠～八島湿原 強清水～八島湿原	10,311	1,142	9.0	天候不良
16	7月17、18、19日 (3日間)	和田峠～八島湿原 強清水～八島湿原	6,773	278	24.4	遅霜の影響によりニッコウキスゲ開花低調
17	7月16、17、18日 (3日間)	和田峠～八島湿原	5,233	220	23.8	ニッコウキスゲ大量開花 天気良好
18	7月15、16、17日 (3日間)	和田峠～八島湿原 強清水～車山肩～ 車山高原	1,820	260	7.0	ラウンドバスとして運行 16日から大雨、17日は通行止め・道路崩落等で中止
19	7月14、15、16日 (3日間)	和田峠～八島湿原	1,258	94	13.4	14日大雨で利用低調、15日道路通行止めにより運行中止、16日は晴天
合計		-	31,203	2,213	14.1	

2 主な課題

運行ルート

これまでは 1路線 又は 2路線

利用者アンケート(平成19年度)で85%の人が、「シャトルバスが霧ヶ峰を歩くきっかけにならなかった」と回答

約6割の人は「シャトルバスが必要」と回答(必要性は理解されている。)

改善のためには

マイカーによらず歩いて霧ヶ峰を楽しんでもらうためには、霧ヶ峰の随所で乗り降りできる運行ルートの設定が必要。また、霧ヶ峰周縁部にマイカー駐車場の確保が必要。

運行期間

これまでは 3日間程度の運行

トップシーズンの一部期間しか対応できていない。また、利用者数が、天候やニッコウキスゲの開花状況に左右されやすい。

改善のためには 少なくとも夏場のシーズンを通しての運行が必要

運行事業者の採算性

これまでは

6年間のうち、運行事業者の採算ラインを超えたのは、平成14年度と17年度の2年のみ

改善のためには

仮に利用者が少なく採算ラインに達しなくても、運行事業者の持ち出しにならないような仕組みが必要

利用者への周知

これまでは シャトルバスの運行を事前に知っていた人は25%程度(平成19年度アンケート)

改善のためには

様々な媒体や近隣観光地でのより徹底した周知や案内板の充実等が必要

環境に配慮した車両

これまでは 通常の路線バス車両を使って運行

改善のためには 環境に配慮した車両の導入が必要